

特別講演

「審美性と予知性を高めるためのImplant Plastic Surgery」

講師：中田光太郎先生

日時：平成26年6月1日（日）

場所：東京・秋葉原UDX4F ギャラリーネクスト1



藤田陽一（千葉県）

朝から汗ばむような陽気の中、平成26年6月1日（日）秋葉原UDX4F ギャラリーネクスト1で第1回定例研修会及び総会が行われました。

当日は運営のお手伝いということで、開会より1時間早く来て昨年一緒に年間コースを受講した、水谷由佳先生と受付等を手伝いました。

今回のセレクトドレクチャーのテーマは、「インプラント周囲炎」近年特に注目される分野です。

まず細野拓生先生による「 β -Powderを用いたAir abrasionによる除染処置とGBR法の予後に関する臨床的検討」

インプラント周囲炎で周囲骨が退縮した場合、 β -Powderを吹き付けた後バイオス等を用いてGBRをした結果、良好な結果が出た旨、報告がありました。

次に鈴木佐栄子先生による「スエーデンで学んだリコールシステムの応用とペリインプラントタイ

ティスの対応」

イエテボリ大学やハルムスタッド病院で学んだ経験を余すところなく教えて頂きました

2人とも短時間ながら、大変内容の濃い発表でした。

その後インプラント周囲炎に関し、関啓介先生の「日本大学歯科病院インプラント科におけるメンテナンス治療」

佐藤博俊先生の「インプラント周囲炎に対する処置法」友野莉江先生の「若井歯科におけるインプラント周囲炎とメンテナンス」それぞれの発表があり、それについての参加者も交えたディスカッションとなりました。

諸先生方は、一流のインプラントジストらしく長期予後考えた素晴らしいお話しをしてくださいました。





昼食を挟んで午後からは、中田光太郎先生の特別講演です。

講演の題目は

「審美性と予知性を高めるためのImplant Plastic Surgery」

インプラント周囲の軟組織を上手にハンドリングすることは、硬組織も含めてですが、審美性 長期の予知性において大きなアドバンテージがあります。

そこで軟組織の改良造成処置としてのImplant Plastic Surgeryをテーマにお話がありました。

講演は、圧倒的な内容の多数の症例写真と動画でただただ驚きの限りです。

勉強になったというより、感動したというのが自分にとっての正直な感想でした。

また自分の知識と技術のなさを再確認でき、いつか自分の臨床に取り入れレベルアップをはかりたいと思いを馳せた次第です。



総会で CISJ新会長 田中譲治先生に 決定

その後の総会では、CISJ会長が井汲憲治先生から田中譲治先生に交替されることが満場一致で決まりました。

井汲憲治先生ご苦勞様でした。

田中譲治先生、これからもよろしくお願い申し上げます。

追記

自宅に帰ったら、丁度「インプラントのための重要12キーワード ベスト240論文」の本が届いていました。

取り敢えずこれで勉強するぞ～！